

横浜市立神橋学校 令和3年度 体育・健康プラン

～体育・健康に関する指導の全体計画～

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標
◎子ども達一人ひとりを大切にしながら、「ふれ合い・学び合い・高め合い」を大切に、まちとともに歩む学校にします。
○主体的・対話的で深い学びの具現を追求するとともに、学習の楽しさを時間できる授業づくりを推進し、生きて働く知識を向上させます。
○一人ひとりが自信と自己有用感をもち、誰もが自分の居場所を実感できる楽しい学校生活が送れるようにします。
○語彙を豊かにするとともに、相手の思いをもつ力、伝え合うことで自分の考えを深化させる力など、確かな言語能力を向上させます。
○ふれあい活動を充実させるとともに、まちの人とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、人やまちを愛する心を育てます。

(2) 体育・健康に関する指導の重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
健やかな体	自分のめあてをもって、継続的に取り組みながら体力を向上させる。食育・保健学習を通して、健康への関心を高める。	① 自分から運動に親しみ、体力向上に取り組む姿勢を育成するために、日々の体育学習の充実を図るとともに、一校一実践や体育的行事の取り組む ② 自ら生活習慣の改善、健康増進や健康な生活を送ろうとする意識と実践力を高めるため、食育や保健活動、学校保健委員会の充実を図っていく。
担当	児童指導部	

2 体育健康に関する実態把握

(1) 体育・健康に関する実態

- ・1週間のうち運動を1～2日程度の児童が半数を占めており、体を動かす習慣が身に付いているとは言えない。
- ・保健室の利用状況（傷病の状況）は、少なくなってきた。学校全体が落ち着いたことと、養護教諭を中心とした、けがや病気の予防への取組や声かけが効果的にはたっている。
- ・体育科の学習が好きな児童は7割近くおり、1校1実践運動の取組の様子を見てみても、楽しみにしながらしっかり取り組んでいる子どもがほとんどである。

(2) 体力の概要と要因の分析

横浜市の平均と比べたとき、50M走および立ち幅跳びといった脚力の面と上体起こしが平均を下回っている。このことから、下半身の使い方を中心に運動経験の少なさが影響しているのではないかと考えられる。また、反復横とびを中心に計測の仕方に慣れていないことで本来の力を十分に発揮できていないことも考えられる。体力テスト実施の前にオリエンテーションや計測の練習を行うなどして対していく。

3 体育・健康に関する具体的取組

教科

《体育科・保健体育科での取組》

- ・新体力テストにおいて、反復横とびや50M走が本校の課題であるため、陸上運動を重点領域とし、ケンステップやラダーを用いて素早く足元を動かす運動や、川とびなど体を大きく動かしながら遠くへジャンプする運動や多様な動きを高める運動で様々な動きに取り組み。

《他教科での取組》

- ・家庭科では、栄養のバランスや生活のリズムについて自己の様子をふり返ることで課題を見つけ、より健康的な生活について自分なりの考えをもち実践できるようにする。

道徳・特活・総合

- ・運動会では、学年に合った一定の距離を全力で走ったり、リズムに乗りながら全身を使って踊ったり、力強い動きで運んだり、引っ張ったりしながら、体育科・保健体育科で培った資質能力を発揮できるようにする。
- ・児童保健委員会では、校内における健康面での課題について、自分たちで解決の方法を考え、集会などを活用して全校児童に発表し、健康への意識が高まるように呼びかける。

課外活動

- ・「神橋けんこう会議」を年2回開き、心身の健康面の課題に対してクラスごとに行った取組についての成果や課題を報告したり、改善点について話し合ったりする。
- ・手洗いソングを使用し、休み時間や昼食の前後の手洗いを定着させる。

令和3年度 神橋小学校 体力向上1校1実践運動

《名称》 朝の体力アップ運動（なわとび跳び）

《ねらい》 運動機会の確保、持久力の向上

《内容》 神橋スポーツ委員会（児童・教員）が企画・運営し、朝の10分間を使って短なわとびに取り組む。

通年：短なわとび

●指 標： 学年ごとに指標を設け、個人に応じた到達目標を設定する。

○短なわ 1分間で跳んだ回数を継続的に測定し、記録を検証する。